

豊田市福祉事業団事業報告

1 総括

かねてより国会で審議されていまして社会福祉法等の一部を改正する法律が平成28年3月に可決成立し、平成29年4月に施行となりました。当事業団におきましても、法改正の趣旨である経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明性向上等の改革を行うとともに、ノーマライゼーションの基本理念をもとに、利用者の主体性と選択性を尊重し自立と社会参加の充実を目指した事業展開に努めました。

児童部門においては、発達に支援が必要な子どもとご家族にとって「オアシス」であれたらとの初心を大切にして、引き続き地域への専門的支援を推進し、保育・教育・福祉・医療機関との連携強化を図りました。ますます多様化する一人ひとりの子どもの特性を重視したきめ細かな発達支援・家族支援を実施しました。また、利用者アンケートを実施し、療育の充実のために個別療育、懇談等の支援方法を検討しました。

施設・設備面では、こども発達センターのエントランス天井の耐震化や空調設備の大規模改修を利用者サービスに影響がないよう配慮しつつ整備をしました。また、市民からのご寄附により大型室外遊具や室内遊具の再整備を実施し、寄附者等をお招きして、遊具のお披露目式を開催しました。

成人部門においては、就労・生活支援センターとけやきワークスによる職場開拓や就労定着支援、第二ひまわりと暖による重度障がい者支援職員研修会の企画開催をはじめ専門的な相談への対応、事業所等支援の充実に努めました。また、成人4施設に共通する課題の検討などを通して総合支援センターの連携強化に努めました。

施設・設備面では、第二ひまわり及び暖の利用者が安全、安心に施設を利用できるよう園庭に周回道路設置及び進入路等の整備に向けた基本設計に着手するとともに、建物の補修、空調機器取替えなど計画的な施設整備に取り組みました。

事業団全体では、今後10年間を見据えた長期計画として策定した推進計画の2年目にあたり、計画目標の達成に向けて着実に取り組みを進め、市が事業団に期待する役割の推進に努めました。

2 理事会・評議員会・監事会に関する事項

(1) 理事会の開催

■ 第1回理事会

日時 平成28年5月26日

場所 けやきワークス 2階会議室

議題 議案第1号 理事の選任

議案第2号 評議員の選任

議案第3号 職員給与規程の一部改正

議案第4号 情報公開規程の一部改正

議案第5号 平成27年度事業報告及び収支決算

■ 第2回理事会

日時 平成28年11月10日

場所 こども発達センター 1階会議室

議 題 社会福祉法人制度改革の概要

■ 第3回理事会

日 時 平成28年12月22日

場 所 けやきワークス 2階会議室

議 題 議案第 6号 評議員選任・解任委員会委員の選任

議案第 7号 評議員選任・解任委員会に提案する次期評議員候補者の推薦

議案第 8号 評議員選任・解任委員会運営規程の制定

議案第 9号 定款の全部改正

議案第10号 就業規則の一部改正

議案第11号 職員給与規程の一部改正

議案第12号 平成28年度第1次補正予算

■ 第4回理事会

日 時 平成29年3月28日

場 所 けやきワークス 2階会議室

議 題 議案第13号 理事の選任

議案第14号 苦情解決第三者委員の選任

議案第15号 施設長の選任

議案第16号 就業規則の一部改正

議案第17号 職員給与規程の一部改正

議案第18号 平成28年度第2次補正予算

議案第19号 平成29年度事業計画

議案第20号 平成29年度予算

(2) 評議員会の開催

■ 第1回評議員会

日 時 平成28年5月26日

場 所 けやきワークス 2階会議室

議 題 議案第 1号 理事の選任

議案第 2号 職員給与規程の一部改正

議案第 3号 情報公開規程の一部改正

議案第 4号 平成27年度事業報告及び収支決算

■ 第2回評議員会

日 時 平成28年11月10日

場 所 こども発達センター 1階会議室

議 題 社会福祉法人制度改革の概要

■ 第3回評議員会

日 時 平成28年12月22日

場 所 けやきワークス 2階会議室

議 題 議案第 5号 評議員選任・解任委員会委員の選任

議案第 6号 評議員選任・解任委員会運営規程の制定

- 議案第 7号 定款の全部改正
- 議案第 8号 就業規則の一部改正
- 議案第 9号 職員給与規程の一部改正
- 議案第10号 平成28年度第1次補正予算

■ 第4回評議員会

- 日時 平成29年3月28日
- 場所 けやきワークス 2階会議室
- 議題 議案第11号 理事の選任
- 議案第12号 監事の選任
- 議案第13号 就業規則の一部改正
- 議案第14号 職員給与規程の一部改正
- 議案第15号 平成28年度第2次補正予算
- 議案第16号 平成29年度事業計画
- 議案第17号 平成29年度予算

(3) 監事会

- 日時 平成28年5月13日
- 場所 こども発達センター 2階小会議室
- 議題 平成27年度事業報告及び収支決算

3 受託施設事業報告

(1) 豊田市こども発達センター

人工呼吸器利用児3名の通園も実現し、難聴児も含めて、多様化する障がい児に対して、一人ひとりの特性にあったきめ細かな支援を実施することができました。乳児保育を利用している支援を必要とする0歳から2歳児に対応するため、豊田市保育課と協議し担当保育士への研修を企画、また障がい児通所支援事業所との連携組織体を設置し研修を実施するなど、地域支援・家族支援に努めました。豊田市福祉事業団研究倫理審査委員会への改組も順調に終了しました。2年目の第1次実施計画の活動も順調に進み、地域機関と顔の見える関係も構築でき、発達支援、家族支援、地域支援などバランスよく実施しました。

【重点目標】

- 1 児童福祉法改正に伴う新たな制度における利用者アンケート調査を実施して、利用者の満足度の向上に努めます。
- 2 少数の特別な配慮が必要な障がい児（難聴児、医療的ケア必要児等）への支援の充実と、増加が著しい発達障がい児への支援の充実を図ります。
- 3 家庭環境の多様化や連携機関の広がりに対応して家族支援・地域支援を強化します。
- 4 大規模災害時における、備蓄物品・安否確認・職員体制等支援体制の確立に向けた検討を行います。
- 5 新たに整備した「豊田市福祉事業団研究倫理審査委員会」の要綱に沿って、必要な研修等を実施するとともに、障がい児者福祉に関する研究活動を促進します。

重点目標達成状況

- 1 通園施設は障がい児支援利用計画の作成、利用計画目標に沿った個別療育計画の作成にあたり、利用者の満足度や理解度を把握するために、アンケート調査を実施しました。満足度は、おおむね良い評価であることを確認しました。理解度は、約9割が「満足」「やや満足」と回答し、利用計画等についておおむね理解されていることを把握しました。なお、調査結果より課題を確認し、療育の充実のために個別療育、懇談等の支援方法を検討しました。
- 2 市内保健師向けに新生児聴覚スクリーニングについての研修会を行いました。また、三機関合同勉強会で医療機関職員等を対象に難聴児支援啓発のための研修会を行いました。

医療的ケア児への支援の充実を目的に人工呼吸器等の研修会を行い、安心安全に子どもたちを受け入れるための療育体制を整えました。

ひまわり、なのはな（ちょうちょ・とんぼ）で、家庭生活における困りごとに関するアンケート調査を実施し、来年度の療育見直し案を作成しました。
- 3 0歳から2歳児クラスのある認可外保育事業所を対象として、発達に支援が必要な子どもに関するアンケート調査を実施しました。発達に支援が必要な子どもは公私立こども園よりも多いことがわかりました。そのため、託児所、認可外保育事業所等を対象とした巡回療育相談を開始したほか、乳児クラスを利用している保護者の相談にも対応できるように訪問相談を実施しました。

増加する放課後等児童デイサービス事業所との連携強化を図るため、豊田市障がい福祉課、みよし市福祉課の協力を得て事業所向けの研修会及び情報交換会を開催しました。
- 4 防災の日に備蓄品のごはんを給食で提供しました。実際に食べてみておいしいという声も聞かれ、非常用食品を食べる練習になったと好評でした。また、安否確認方法の一つである一斉メール連絡システムについて職員を対象に、登録や使用方法などの研修会の実施とともに、本格的な始動に向け一部職員を対象に模擬登録訓練を行いました。
- 5 こども発達センター研究倫理審査委員会から発展的移行による豊田市福祉事業団研究倫理審査委員会の設立と新しい要綱について7月1日の外部委員会での承認を受け本格的始動となりました。同日、義務研修として、中京大学 渡邊丈眞教授による委員対象の講義、翌年1月に各委員（職員）による全職員を対象とした講演会を開催しました。委員会の活動について事業団のホームページで研究情報の掲載を開始しました。17件の審査を通して研究の開始や学会発表などを促進しました。

① のぞみ診療所

障がいのある子どもたちを対象とした専門医療機関として、医療支援（診断・検査・各種療法など）を通して、発達の促進を図りました。また、前年度に引き続き、地域の医療・教育・保育・福祉機関との連携・協力体制を進め、地域支援の充実に

努めました。日頃の活動の成果等を社会に還元できるように、研究倫理審査体制の拡充、整備をしました。

【重点目標】

- 1 のぞみ診療所利用者アンケート調査を実施して、診療内容のさらなる充実を図り、利用者の満足度の向上に努めます。
- 2 療育・保育・教育・福祉・医療機関などとの連携を踏まえ、ライフステージを意識した継続的な医療支援を進めます。
- 3 「豊田市福祉事業団研究倫理審査委員会」の要綱に沿って、研修の実施や障がい児者福祉に関する研究活動を促進します。

重点目標達成状況

- 1 外来利用者を対象とした「職員の接遇」を中心としたアンケート調査を8月に実施しました。100人から回答を得た結果、おおむね「満足」「ほぼ満足」が9割を超え、一定の満足度が維持されていることが確認できました。
- 2 暖やかども園等で職員実習を行い、地域支援に関する理解を深めました。福祉事業所職員を対象とした講義や事例検討による研修、個別療法の見学などにより福祉機関への支援を進めました。
医療連携として、2回の「三機関合同障がい児医療・療育に関する勉強会」において「難聴」「学習障がい」に関する症例検討や講義を行い、また、市内の小児科クリニックと発達障がいに関する情報交換を行いました。
「障がいのある子どもたちのコミュニケーションへの支援」をテーマとして、第108回障がい児療育談話会を主催し、県内の福祉関係者82名の参加を得て交流を深めました。
- 3 (1) こども発達センター重点目標5の達成状況に記述したとおり、研究や学会発表の促進を図りました。

◇科別診療状況

診療科目	延べ人数 (人)	前年度比 (%)	初診 (人)	前年度比 (%)	訓練科目	延べ人数 (人)	前年度比 (%)
児童精神科	6,981	100.0	355	108.2	理学療法	3,658	96.2
小児神経科	2,892	107.2	110	106.8	作業療法	3,354	113.3
小児整形外科	2,435	91.3	101	97.1	言語聴覚療法	4,680	117.0
耳鼻咽喉科	433	78.3	85	67.5	心理療法・心理検査	1,654	107.5
泌尿器科	64	68.1	8	88.9	個別療法等合計	13,346	108.5
小児歯科	2,821	90.6	68	107.9	検査件数(件)	1,098	101.4
合 計	15,626	97.0	727	99.2	処方件数(件)	6,883	98.7
					外来栄養相談支援	150	83.8

◇診療所受診者（実人数）

区 分	28年度（人）		前年度比（%）	
	初 診	再 診	初 診	再 診
医 科	4 5 7	2, 8 8 7	9 0 . 0	9 9 . 4
歯 科	6 8	5 9 3	1 0 7 . 9	1 1 8 . 4

② 地域療育室

◆ 相談支援グループ

こども発達センターの総合窓口として、子どもの発達とご家族の育児に関する各種相談支援に努めました。また、西三河北部福祉圏域のコーディネート機関として豊田市心身障がい児早期療育推進委員会の運営、障がい児等療育支援事業を実施し、医療的ケア児への支援の充実など一層の地域支援に努めました。

【重点目標】

- 1 放課後等児童デイサービスなどを提供している障がい児通所支援事業所との連携組織体を設置します。体系的な研修を実施し、連携における課題を抽出します。

重点目標達成状況

- 1 障がい児通所支援事業所の職員を対象とした研修会（講演会、情報交換会、事例検討会）を年間を通じて企画、開催し、体系化しました。また、連携における課題を確認しました。行政と障がい児通所支援事業所の情報共有のため、“西三河北部圏域放課後等デイサービス事業所連絡会”を新たに設置し、連絡会を開催しました。

◇相談件数

延べ相談件数（件）	月平均（件）	前年度比（%）
3, 0 1 5	2 5 1	8 6 . 4

■ 障がい児等療育支援事業

障がい児の地域における生活と発達を支えるため、療育支援、相談等に努めました。

事 業 名	延べ人数等	前年度比（%）	備考
訪問療育指導事業	2 0 7 人	1 1 0 . 7	訪問相談等
外来療育支援事業（わくわく）	3 2 6 人	8 1 . 9	登録者 7 5 人
施設支援一般指導事業	5 1 3 回	1 7 1 . 5	講演会・事例検討会等
栄養相談	4 8 4 人	1 0 2 . 7	

■ 巡回療育相談

地域の障がい児、療育関係者への支援及び啓発研修を実施しました。

◇事例検討

地 域	対象施設	園 数 (件)	回 数 (回)	対象児 (人)
豊田市	公私立こども園、私立幼稚園、小中学校	1 2 6	3 0 8	5 0 8
みよし市	公私立保育園、私立幼稚園、小中学校	1 2	3 1	3 8
合計 (前年度比%)		1 3 8 (99.2)	3 3 9 (119.7)	5 4 6 (115.9)

◇地域支援事業派遣スタッフ延べ人数

名 称	児童精神科医	小児整形外科医	小児神経科医	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	支援員	相談員	保健師	管理栄養士	スタッフ合計
訪問療育	0	0	0	6	1	2	1	9	16	2	0	37
前期巡回相談	0	0	0	5	10	41	51	46	57	15	0	225
後期巡回相談	0	0	0	4	4	39	52	32	53	15	0	199
随時巡回相談	0	0	0	7	0	29	22	2	19	5	0	84
園訪問	0	0	0	11	5	3	2	2	9	0	2	34
みよし市療育 研修会	0	0	0	0	1	2	0	1	1	0	0	5
公開保育	2	0	4	0	0	0	0	6	0	0	0	12
健診事後フォロー	0	0	0	0	0	0	2	6	0	0	0	8
教職員向け ケース支援	5	2	7	44	26	20	26	13	26	7	4	180
スタッフ合計	7	2	11	77	47	136	156	117	181	44	6	784
前年度比(%)	140.0	200.0	157.1	592.3	195.8	105.4	126.8	134.5	119.1	141.9	200.0	136.3

◆ あおぞら・あおぞらおひさま

支援目標 障がいの有無にかかわらず、発達の支援を必要とする乳幼児の親子通園療育を週 1～2 回実施し、全体的発達を促すとともに保護者への子育て支援を行いました。

【重点目標】

- 1 利用者アンケート調査を実施して、療育内容のさらなる充実を図り、利用者の満足度の向上に努めます。
- 2 超早期療育を求める家族のニーズに添った療育体制を整えます。
- 3 子どもの発達を捉え、年齢に応じた進路支援と移行時支援の充実を図ります。
- 4 家族が子どもの発達特性を踏まえた防災グッズを備えられるように啓発します。

重点目標達成状況

- 1 利用者の満足度の向上を図るために、療育内容等のアンケート調査を実施し、多くの利用者から満足であるとの結果を得られました。一方、参加人数が多く怪我の不安があるとの意見も複数寄せられたため、全活動室にコーナーカバーの設置など安全対策を行いました。
- 2 0歳児であおぞら、おひさまを利用した保護者を対象にグループ分けに関するアンケート調査を実施しました。その結果を踏まえ、11月以降に入所する0歳児の受け入れを1歳児グループで行いました。
- 3 活動の様子と臨床心理士の面接内容をもとに子どもたちの発達を多角的にとらえ、進路支援に活かしました。
- 4 保護者が防災に対する意識を深められるように、防災グッズ等の情報を掲示しました。

◇あおぞら・あおぞらおひさまの利用児数

	登録人数(人)	前年度比%	延べ利用人数	月平均(人)	前年度比%
あおぞら	629	118.1	18,462	1,539	110.9
あおぞらおひさま	289	107.4	7,956	663	112.2

2施設合計：登録人数918人、前年度比114.5%、延べ利用人数26,418人

◇あおぞら・あおぞらおひさま利用児の年齢

施設/年齢	0歳児(人)	1歳児(人)	2歳児(人)	3歳児(人)	4歳児(人)
あおぞら	19	187	310	112	1
あおぞらおひさま	24	126	139	0	0

※年齢区分は年度末の状況

◇あおぞら利用児の性別（人数）

施設/性別	男	女	合計
あおぞら	414	215	629
あおぞらおひさま	186	103	289

※性別区分は年度末の状況

◇あおぞら進路の状況（人数）

施設/進路	こども園	私立幼稚園	ひまわり	なのはな	託児所	家庭	転居	不明	継続	
									あおぞら	おひさま
あおぞら	178	145	5	13	8	15	17	28	220	0
施設/進路	こども園	私立幼稚園	ひまわり	なのはな	託児所	家庭	転居	不明	継続	
あおぞらおひさま	46	64	0	5	3	1	9	3	28	130

③ なのはな（定員30人）

◆なのはなグループ

0歳から就学前までの難聴児に対し、個々の子どもの聴力や発達に合わせた療

育を超早期から行いました。

【重点目標】

- 1 児童福祉法改正に伴う新たな制度における利用者アンケート調査を実施して、療育内容のさらなる充実を図り、利用者の満足度の向上に努めます。
- 2 難聴児支援を充実させるため、新生児聴覚スクリーニング後の精密検査機関や乳幼児健診機関との連携強化を進めます。
- 3 大規模災害時の通園児の安否確認方法の実施、また職員体制等について検討します。

重点目標達成状況

- 1 法改正に伴い利用者アンケート調査内容を見直し、児童発達支援サービス利用や利用計画目標に沿った個別療育計画等について、利用者の理解度や満足度を把握するために、アンケート調査を実施し、おおむね良い評価であることを確認しました。なお、調査結果より課題を確認し、異年齢の子どもの交流を増やすなど来年度からの支援に活かしていきます。
- 2 市内保健師向けに新生児聴覚スクリーニングについての研修会を行いました。また、三機関合同勉強会で医療機関職員等を対象に難聴児支援啓発のための研修会を行いました。
- 3 大規模災害時の通園児の安否確認方法の一つとして、豊田市内のこども園、小中学校などが利用している一斉メール配信について、登録や使用方法などの職員研修を行いました。

◆ちようちょ・とんぼグループ

個々の子どもの発達段階と障がいの特性を考慮して、保護者との愛着関係を基盤とした全体的発達を促す支援をしました。また、保護者に対して、対人関係を促す適切なかわり方を伝え、着実に親子関係が育つよう支援しました。

【重点目標】

- 1 児童福祉法改正に伴う新たな制度における利用者アンケート調査を実施して、療育内容のさらなる充実を図り、利用者の満足度の向上に努めます。
- 2 多様化する発達障がい児の支援を踏まえ、療育体制見直し案を作成します。
- 3 大規模災害時の通園児の安否確認方法の実施、また職員体制等について検討します。

重点目標達成状況

- 1 なのはなグループの達成状況と同様に、アンケート調査内容を見直すとともに、利用者の理解度や満足度を把握するアンケート調査を実施し、おおむね良い評価であることを確認しました。なお、調査結果より課題を確認し、クラス間やのぞみ診療所スタッフとの連携をさらに深めるなど来年度からの支援に活かしていきます。
- 2 ひまわり、なのはな（ちようちょ・とんぼ）で、家庭生活における困りごとに

関するアンケート調査を実施し、来年度の療育見直し案を作成しました。

3 大規模災害時の通園児の安否確認方法の一つとして、豊田市内のこども園、小中学校などが利用している一斉メール配信について、登録や使用方法などの職員研修を行いました。また、避難所体験を実施し、家庭で生かせる持ち出し袋を作成しました。

◇利用人員

なのはなグループ

契約利用者数(人)	提供日数(日)	延べ利用者総数(人)	利用者通所可能延べ総数	利用率(%)
19	243	859	950	90.4

ちょうちょ・とんぼグループ

契約利用者数(人)	提供日数(日)	延べ利用者総数(人)	利用者通所可能延べ総数	利用率(%)
22	243	3,691	4,164	82.6

- ※注 ・「契約利用者数」は、施設との利用契約を締結した利用者総数
 ・「提供日数」は、施設の開設日数
 ・「延べ利用者総数」は、各利用者が当該期間に通所した人数の合計
 ・「利用者通所可能延べ総数」は、各利用者が当該期間に通所可能だった日数の合計
 ・「利用率」は、利用者が施設の開設日数のうち、どれだけ通所したかの割合
 「利用率」＝「延べ利用者総数」／「利用者通所可能延べ総数」

◇利用児の年齢

なのはなグループ

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	平均年齢
人数	3	4	2	4	4	2	2.5歳

※注 なのはなグループは途中入園があるため、平成29年3月1日現在の年齢

ちょうちょ・とんぼグループ

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	平均年齢
人数	0	0	0	22	0	0	3.0歳

※注 「年齢」は、平成28年4月1日現在の区分

◇利用児の性別

なのはなグループ

性別	男	女	合計
人数	10	9	19

※注 なのはなグループは途中入園があるため、性別は平成29年3月1日現在の区分

ちょうちょ・とんぼグループ

性別	男	女	合計
人数	19	3	22

※注 「性別」は、平成28年4月1日現在の区分

◇退園後の状況

なのはなグループ

進路	こども園 保育園	私立 幼稚園	ひまわり	たんぽぽ	小学校	聾学校	継続
人数	0	0	0	0	2	0	17

※ 並行通園児は9名

ちょうちょ・とんぼグループ

進路	こども園	私立幼稚園	ひまわり
人数	8	1	13

④ たんぽぽ（定員40人）

0歳から就学前までの運動発達に不自由さのある子どもに対し、個々の発達段階と心身の特性を考慮して、身体機能をはじめとする全体機能の発達を促し日常生活動作が習得できるように支援しました。また、日々育児にあたる保護者に対し、保護者の役割と子どもとの適切なかかわりの基本が習得できるように支援しました。

【重点目標】

- 1 児童福祉法の改正に伴う新たな制度における利用者アンケート調査を実施して、療育内容のさらなる充実を図り、利用者の満足度の向上に努めます。
- 2 重症心身障がい児や医療的ケア必要児に対する支援方法について検討し、職員研修を実施して、安全で安心できる支援を提供できるように努めます。
- 3 大規模災害時の通園児の安否確認方法の実施、また職員体制等について検討します。

重点目標達成状況

- 1 たんぽぽにおいても法改正に伴う利用者アンケート調査内容を見直すとともに、個別療育計画等についての利用者の理解度や満足度を把握するために、アンケート調査を実施し、おおむね良好の評価であることを確認しました。なお、調査結果より課題を確認し、支援の充実のために園児に対する支援方法の勉強会と職員の接遇研修を実施しました。
- 2 今年度は胃ろう・吸引・導尿などの医療的ケア必要児に加えて、初めてたんぽぽに人工呼吸器使用の園児が入園しました。のぞみ診療所の医師から人工呼吸器、呼吸や痰の吸引についての勉強会を実施し、知識を深めました。また、園児に携わる関係職員で支援会議を実施し、園児と家族に対する安全で安心な支援の提供に努めました。

- 3 大規模災害時の園児や職員の安否確認について、一斉メールで把握することを検討しました。また、一斉メール配信システムの登録や運用方法などに関する職員研修を実施しました。

◇利用人員

契約利用者数 (人)	提供日数 (日)	延べ利用者総数 (人)	利用者通所可能 延べ総数(人)	利用率(%)
40	243	4,076	6,844	59.6

※各項目については、「なのはな」の脚注と同じ。

◇利用児の年齢

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	平均年齢
人数	0	5	13	13	7	2	2.7歳

◇利用児の性別

性別	男	女	合計
人数	15	25	40

◇退園後の状況

進路	こども園 保育園	私立 幼稚園	ひまわり	なのはな	あおぞら	豊田特別 支援学校	死亡	継続
人数	2	4	8	1	1	2	2	20

⑤ ひまわり（定員50人）

3歳から就学前までの知的発達がゆっくりな子どもに対し、個々の子どもの発達段階と障がい特性を考慮して、情緒の安定を図りつつ全体の発達を支援しました。また、日々育児にあたる保護者に対し、保護者の役割と子どもとのかかわりの基本を習得し、適切な子育てができるよう支援しました。

【重点目標】

- 1 児童福祉法改正に伴う新たな制度における利用者アンケート調査を実施して、療育内容のさらなる充実を図り、利用者の満足度の向上に努めます。
- 2 ひまわりの療育体制と療育内容および家族支援の課題を把握し、支援方法について見直します。
- 3 大規模災害発生後を想定した、ひまわりにおける園児対応と職員体制を検討し、防災対策に努めます。

重点目標達成状況

- 1 ひまわりにおいても法改正に伴う利用者アンケート調査内容を見直すとともに、個別療育計画等に係る利用者の理解度や満足度を把握するアンケート調査を実施し、おおむね良好の評価であることを確認しました。なお、調査結果より課題を確認し、療育内容の充実のために個別療育の支援方法を検討しました。

- 2 保護者に家庭生活における困りごとに関するアンケート調査を実施し、調査結果より個別懇談以外の相談と普段の療育見学のニーズを把握し、支援内容を検討しました。
- 3 大規模地震注意情報・警戒宣言発令時における、支援方法・安否確認方法等を検討し、園児引き渡し訓練および避難所体験を実施し、防災対策の充実と啓発に取り組みました。また、安否確認システムに関する職員研修を実施しました。

◇利用人員

契約利用者数(人)	提供日数(日)	延べ利用者総数(人)	利用者通所可能延べ総数(人)	利用率(%)
50	243	9,175	10,092	90.9

※ 各項目については、「なのはな」の脚注と同じ。

◇利用児の年齢

年齢	3歳	4歳	5歳	平均年齢
人数	16	26	8	3.8歳

◇利用児の性別

性別	男	女	合計
人数	38	12	50

◇退園後の状況

進路	こども園	私立幼稚園	小学校特別支援学級	三好特別支援学校	豊田特別支援学校	施設入所	継続
人数	21	1	1	6	1	0	20

⑥ 保育所等訪問支援事業

通園児に対し、こども園等における集団生活への適応のため訪問支援を実施しました。

施設名		契約人数	利用児延べ総人数
なのはな	なのはなグループ	8	9
	ちょうちょ・とんぼグループ	22	38
たんぽぽ		29	32
ひまわり		51	163

⑦ 管理担当

事業団各施設に安全で質の高い給食を提供するとともに、食育支援に努めました。こども発達センターを利用される方に、快適に利用していただけるよう施設の環境を整えました。

【重点目標】

- 1 発達障がい児にみられる偏食支援として、リーフレットを作成します。
- 2 事業団の全調理室内における災害時の初動対応マニュアルを作成し、調理員全員を対象とした避難訓練と初期消火訓練を実施します。
- 3 空調設備の大規模改修工事実施において、利用者への影響を最小限にするために、円滑な施工管理に努めます。

重点目標達成状況

- 1 リーフレット『「食べる力」を育む生活リズム』と『お野菜もぐもぐ』を作成しました。来年度から活用を開始します。
- 2 調理室における災害時初動マニュアルを作成し、それに沿った調理員対象の避難訓練を実施しました。水消火器を用いた初期消火訓練も行い、来年度以降の継続した訓練の必要性を確認しました。
- 3 空調・天井耐震工事施工時の騒音や工事区域等の施設環境の変化に対しては、館内掲示物や保護者への文書を活用し、利用者へ丁寧に工事連絡を行うように心掛けました。さらに、サービスへの影響をより少なくするため、行事日程変更や工程等についてセンター全体で協議を重ね、施工業者間との調整を図りました。

⑧ その他

■ 第21回豊田市こども発達センター・公開セミナー

11月13日（日）において、センターひまわりホールでセミナーを開催しました。本年度は「見つめて、知ろう子どものこころ」をテーマに、基調講演及びシンポジウムを行いました。基調講演には心療内科・内科リエゾンメディカル丸の内院長村瀬聡美氏を講師に招き、最新のデータや講師の豊富な経験をもとに乳幼児期における親子の関りの必要性について講演を行いました。シンポジウムでは「支えよう子どものこころ」をテーマとして、豊田市立若園小学校教頭川原美佳氏、同市立伊保こども園園長加納好江氏及び保護者の長澤幸祐氏の3名をシンポジストとして、子どもの健やかな育ちのために心掛けていることなどを各立場からお話しいただきました。

参加者は保護者や保育師、福祉関係者など約150名で、終了後のアンケートでは、「子どもとの関わりについて改めて考えさせられた。」「シンポジストの皆さんがそれぞれに愛情深く子どもと関わっていることを知り励まされた。」などの回答を得ました。

今回のセミナーでは、広く市民や子どもに関わる仕事をしている方々に参加してもらうため開催時間を半日に短縮するとともに、未就園児の託児も行いました。

今後も子どもの発達や育ちなど関心の高いテーマを選定し、参加者の満足が得られる内容や工夫を取り入れて開催していきます。

■ こどもひろば利用者の状況

利用日数(日)	延べ利用者数(人)	1日平均(人)	月平均(人)	前年度比(%)
216	1,790	8.7	149.2	108.0

※前年度比は延べ利用者数にて算出

■ こどもひろばボランティア参加者の状況

活動日数(日)	延べ参加人数(人)	1日平均(人)	月平均(人)	前年度比(%)
216	1,113	4.9	92.3	99.3

※前年度比は延べ参加人数にて算出

■ 視察者の状況

愛知県弁護士会西三河支部会員、春日井市まちづくり推進部、岡崎こども発達センター準備室及び建設会社、浜松市社会福祉事業団、大府市自立支援協議会、西枇杷島地区・日進市西地区・刈谷市・岡崎市・みよし市に加え、市内5地区の民生児童委員協議会からの視察を受け入れました。

件数(件)	延べ人数(人)	1団体平均(人)	月平均(人)	前年度(延べ人数)比(%)
25	471	18.8	39.3	68.8

※前年度(延べ人数)比減の要因は、空調設備等改修工事に伴う視察受入中止によるものです。

■ 講師派遣

関係機関からの依頼などにより、研修会での講演を行いました。

派遣職種	対象者	講演内容等	回数
医師	医師・教師・保育士 幼稚園教諭・保護者 発達障がい児支援 関係者・一般等	自閉症・ADHD・障害児医療・保育・教育・障がいの理解・発達障がい児への支援の仕方等	22
理学・作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士 歯科衛生士、管理栄養士等	保育士・幼稚園教諭 保健師・学生・教師 保護者等	リハビリテーション・障がい・子育て支援・食物アレルギーへの対応、歯科保健支援等	102
合計 (前年度比%)			124 (104.2)

■ 豊田市福祉事業団研究倫理審査委員会

こども発達センター研究倫理審査委員会からの発展的移行による豊田市福祉事業団研究倫理審査委員会の設立及び新要綱の制定について、7月1日実施の外部委員会での承認により本格的始動となりました。また、審査の義務化に伴い、倫理審査委員を対象に中京大学渡邊丈眞教授による講義を実施しました。

さらに、「誰でも研究できますよ！楽しく研究して発表しましょう！」をテーマに、事業団研究倫理審査委員会設置要綱及び事業団研究マニュアルの説明のほか研究経験者による研究の意義などについて全職員を対象に講演会を開催しました。

なお、委員会の活動について広報するために、事業団ホームページで研究情報の掲載を開始しました。本年度は外部委員を交えた委員会を2回、迅速審査委員会（内部審査）を14回開催し、申請案件17件の審査を通して研究の開始や学会発表などを促進しました。

■ 研究発表（学会発表、刊行物）

日本児童青年精神医学会、日本障害者歯科学会、日本重症心身障害者学会、日本発達障害学会、日本小児神経学会等で10題の研究発表を行いました。

(2) 障がい者総合支援センター

障がい者の支援拠点として、成人4施設が一体的な運営を行うことにより、日常生活や就労に関する相談や支援が総合的にできるよう努めました。

【重点目標】

- 1 権利擁護に関する認識を深め、より高い意識をもって障がいを理由とする差別を解消するための取組を進めます。今年度は、利用者本人及び家族から「障がいがあることで障がいのない人とは違う扱いを受けて困ったこと」「自分の障がいに合った必要な工夫をしてもらえなかったこと」などを聴き取ってまとめます。
- 2 就労・生活支援センターとけやきワークスの連携を深め、訓練・就労先の開拓・定着支援までの一貫した就労支援を進め、けやきワークス利用者の就職率の向上を図るとともに、新規就労者の増加に努めます。
- 3 第二ひまわりと暖の利用者の高齢化・重度化に対応できる環境の再整備に取り組みます。今年度は、園庭のロータリー化の基本設計と、利用者の障がい特性を考慮した活動室のモデルを検討します。
- 4 大規模災害発生時の対応について、施設開所時間中に発生した場合の利用者の避難及び待機についての行動マニュアル作成に向けた検討を行います。

重点目標達成状況

- 1 全職員を対象とした障がい者差別解消法の講義（参加者約80名）を9月に、虐待につながるような具体的事例に対するグループワーク（参加者約100名）を2月に行いました。

利用者本人及び家族に「障がいがあることで差別を受けたと、感じたこと」などを聴取し、とりまとめた結果を配付しました。回答者（155名）の約半数の方に「差別を受けた。感じた。」経験があり、それらの多くは「周囲からの視線や言葉」という内容でした。また、「普通に接してくれた。」「さりげなく助けてもらった。」などうれしかった体験も聴取できました。

- 2 定期的な連絡会議を行うとともに、就労支援プログラムの講師を務めるなどの機会を設け、けやきワークス利用者の特性・能力を把握し職場の開拓を行いました。職場開拓後の企業が求める人材と利用者のマッチングが円滑に行え、6人が一般企業に就職しました。就労・生活支援センターとけやきワークスで継続的な定着支援を行い、けやきワークス利用者の離職者は発生しませんでした。
- 3 利用者の安全が確保できる環境を市関係部署及び設計業者と協議し、送迎車両と利用者の動線を考慮した園庭の周回道路・駐車スペース・周辺の舗装打替え、雨水処理など基本構想が完成しました。また、強度行動障がいのある方が過ごしやすい活動室について、あると良い設備や環境整備の案を第二ひまわり職員から聴取してまとめました。
- 4 来年度の行動マニュアル作成に向けて、災害想定と職員対応の方向性について検討しました。

災害用備蓄食品を利用者の口腔機能に適した形で提供できるよう「災害時食事支援マニュアル」作成し、9月1日の防災食給食の日に災害時の食事支援について確認しました。

① 就労・生活支援センター

障がい者が地域で自立した生活ができるよう総合的な支援を行うとともに、就労支援については、けやきワークス等の就労支援事業所、特別支援学校等の関係機関と連携して一般就労を推進しました。また、国・県の「障害者就業・生活支援センター事業」を受託し、みよし市も含めた西三河北部圏域における就労支援の拡充を図りました。

【重点目標】

- 1 組織の役割を明確にし、高校・大学・専門学校などを含めた教育機関との連携を強化、労働関係機関、医療・福祉関係機関との連携を見直し、就労支援・生活支援のさらなる充実を図ります。
- 2 発達障がいのある子どもへ将来の就労に向けた助言と発達障がいのある方への就労・生活支援の充実を図ります。

重点目標達成状況

- 1 自立支援協議会への参加（豊田市自立支援協議会64回、うち就労支援部会24回、みよし市自立支援協議会4回）や、豊田公共職業安定所との情報交換会（4回）を行い就労支援の充実に努めました。また、豊田公共職業安定所及び豊田市との共催で、市内事業所の障がい者雇用を検討している企業の担当者を対象に、「障がい者雇用のためのセミナー」を実施しました（企業34社、支援機関等16事業所67名参加）。
- 2 豊田市内の障がい者支援機関従事者を対象に、発達障がいの理解を深めるための研修を実施しました（参加者40名）。また、特別支援学校在校生（25名）を対象に、西三河北部障がい者就業・生活支援センターにおける登録面接の実施、相談面接・追指導等の実施、保護者向け懇談会の実施など、特別支援学校との連携を強

化し、支援の充実を図りました。

◇関係機関協働事業

事業名	事業内容
障がい者雇用のためのセミナー	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者就業・生活支援センター、豊田公共職業安定所との共催で実施 ・「精神障がい者の雇用」をテーマに愛知障害者職業センターから講師を招き、障がい者雇用と定着支援についての講義をしていただきました。 ・障がい者を受け入れる側の企業と送り出す側の就労移行支援事業所双方に参加いただき、それぞれの立場での障がい者雇用に対する理解が深まりました。 <p>■ 2月16日（木） けやきワークス2階会議室 34企業37名、16支援機関30名 参加</p>

◇人材育成研修事業

事業名	事業内容
障がい者福祉従事者研修	<ul style="list-style-type: none"> ・「発達障がいのライフデザイン支援」をテーマに、愛知教育大学の三谷氏に講義と発達障がい者の暮らしづらさを体験するワークをしていただきました。 ・参加者のアンケートからは、体験をとおして当事者への理解が深まった等の感想を多数いただきました。 <p>■ 10月4日（火） けやきワークス2階会議室 障がい者支援従事者40名参加</p>

◇総合相談事業

事業名	事業内容
総合相談窓口	相談件数2,647件、新規相談者数131人（内みよし市2人） （身体21人、知的47人、精神35人、その他28人）

◇就労支援事業

事業名	事業内容
職場開拓	124社、587回訪問、就労実績54人（内みよし市1人） （身体8人、知的34人、精神12人）
関係機関訪問	豊田公共職業安定所訪問 69回
ジョブコーチの企業訪問等による障がい者支援	ジョブコーチ支援件数 553件

② けやきワークス（定員50人）

おおむね18歳以上で身体障がい・知的障がいのために雇用されることが難しい人に対し、就労研修など企業への就労支援や、自己の能力に適した福祉的就労の場を提供し、職業能力及び社会適応性を高め、社会参加の促進に努めました。

【重点目標】

- 1 就労支援プログラムの充実を図るとともに、関係機関との連携を深め、一般企業への就労を目指します。
- 2 新規業務を開拓し、利用者の能力に合った業務配分を行うとともに、工賃の安定支給を図ります。

重点目標達成状況

- 1 民間コンサルタント等による基礎的研修を38回行うとともに、就労意識を高めるため、一般企業など15か所で職場実習を行いました。愛知障害者職業能力開発校や障がい者就労・生活支援センターとの連携を深め、6人が一般企業へ就職しました。
- 2 喫茶新メニューの開発、新規受注先との契約、名古屋学芸大学・地元専門業者参加による新商品の開発・販売コーナーの一新等を行い、収入の増加を図りました。月平均工賃は26,806円となりました。

◇利用人員

事業	契約利用者数	提供日数	延べ利用者総数	利用者通所可能延べ総数	利用率
就労移行支援事業	17人	243日	2,504人	2,884人	86.8%
就労継続支援事業B型	42人	243日	8,333人	9,814人	84.9%

※注 ・「契約利用者数」は、施設との利用契約を締結した利用者総数

・「提供日数」は、施設の開設日数

・「延べ利用者総数」は、各利用者が当該期間に通所した人数の合計

・「利用者通所可能延べ総数」は、各利用者が当該期間に通所可能だった日数の合計

・「利用率」は、利用者が施設の開設日数のうち、どれだけ通所したかの割合
「利用率」＝「延べ利用者総数」／「利用者通所可能延べ総数」

・「年齢」「性別」「障がい者手帳保持状況」「障がい支援区分」「利用中止の状況」は、平成29年3月31日現在

・「障がい者手帳保持状況」の療育手帳と身体障がい者手帳は重複あり

◇利用者の年齢

年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	平均年齢
就労移行支援事業	4人	4人	2人	1人	0人	24.4歳
就労継続支援事業B型	0人	6人	12人	15人	7人	40.7歳

◇利用者の性別

性別	男	女	合計
就労移行支援事業	6人	5人	11人
就労継続支援事業B型	22人	18人	40人

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳			身体障がい者手帳			精神障がい者 保健福祉手帳
	A判定	B判定	C判定	1級	2級	3級	3級
就労移行支援事業	0人	6人	2人	2人	0人	0人	1人
就労継続支援事業B型	12人	9人	6人	8人	4人	6人	0人

◇利用中止の状況

中止の理由	自宅	就職	その他	計
就労移行支援事業	0人	6人	1人	7人
就労継続支援事業B型	3人	0人	1人	4人

③ 第二ひまわり（定員70人）

おおむね18歳以上の知的障がいのある方を対象に、生活作業活動等を通して社会生活へ適応能力向上への支援を行い、日々の生活の充実と社会参加の促進を図りました。

【重点目標】

- 1 職員が共通認識をもって支援に取り組めるように、第二ひまわりの施設の運営方針、支援方針の見直しを行います。
- 2 関係機関や地域住民等に第二ひまわりの取組や知的障がいについて理解していただけるように、見やすく分かりやすいリーフレットを作成します。

重点目標達成状況

- 1 現行の支援方針の内容を精査し、他団体の理念、方針を参考としながら個人の尊重、健康の増進、社会参加・社会貢献の3項目からなる第二ひまわりの運営方針を作成しました。職員が支援に悩んだり迷ったりしたときに、支援の支えにできるよう、わかりやすい表現を用い、共通した意識をもって支援にあたる運営方針としました。
- 2 様々な団体のリーフレット等を収集し、わかりやすいリーフレットの検討を行いました。利用者の個性や、得意なこと頑張っていることなどを紹介し、知的障がいや第二ひまわりの活動を理解していただける写真入りのリーフレットを作成しました。

◇利用人員

契約利用者数（人）	提供日数（日）	延べ利用者総数（人）	利用者通所可能延べ総数	利用率（%）
70	243	14,657	16,103	91.1

※各項目については、「けやきワークス」の脚注と同じ。

◇利用者の年齢等

年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	平均年齢	男	女
人数	3	18	24	20	4	1	35.9歳	51	19

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳		身体障がい者手帳					
	A判定	B判定	1級	2級	3級	4級	5級	6級
人数	69	1	4	3	2	1	0	0

◇障がい支援区分

区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当
人数	22	35	13	0	0	0	0

◇利用中止の状況

種別	通所施設	入所施設	死亡	家庭	計
人数	1	0	0	0	1

④ 暖（定員36人）

おおむね18歳以上の重症心身障がいのある方を対象とした生活介護事業として、日中活動を通して、健康状態を保ち充実した毎日が過ごせるよう支援し、社会参加の促進を図りました。

【重点目標】

- 1 利用者の心身の状態、体調、生活リズムなどの変化に対応できる柔軟な活動グループを検討し、利用者主体の日中活動支援と健康支援の充実を図ります。
- 2 重症心身障がいの方が将来にわたって地域で安心して暮らせる仕組みについて、課題を整理し、課題の解決に努めます。

重点目標達成状況

- 1 その日の体調やいつもと異なる症状から利用者の状態を把握し、活動中の姿勢や利用時間内でのポジショニング支援を再確認し、肺炎予防や健康管理に努めるとともに活動への参加を支援しました。骨折リスクの高い利用者の移乗介助方法について再検討し、事故防止に努めました。

嚥下機能の低下がみられる利用者に対しては、関係機関とも連携して利用者の健康状態が維持できる支援方法を検討し、利用者の方が楽に楽しく過ごせる対応ができました。

- 2 暖家族会で、家族の抱えている不安を把握し、その解決と今後の課題を検討しました。また、他の生活介護事業所やグループホーム、居宅サービスとの情報共有のみでなく、ショートステイで利用する医療機関などにも、普段の生活の様子を写真付きで情報提供をし、関係機関や利用者家族から良い評価をいただきました。

◇利用人員

契約利用者数(人)	提供日数(日)	利用者延べ総数(人)	利用者通所可能延べ総数	利用率(%)
35	243	6,431	7,392	87.0

※各項目については、「けやきワークス」の脚注と同じ。

◇利用者の年齢等

年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	平均年齢	男	女
人数	0	6	25	3	0	33.4歳	17	17

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳			身体障がい者手帳					
	A判定	B判定	C判定	1級	2級	3級	4級	5級	6級
人数	33	0	1	25	6	3	0	0	0

◇医療的ケア必要者14名(38.9%)

ケアの種類	喀痰等吸引		経管栄養		その他			
	口鼻腔	口鼻腔+ 気管カニューレ内	胃瘻	腸瘻	人工呼吸器	導尿 摘便	吸入	血圧 管理
人数	8	3	10	1	1	1	2	1

◇障がい支援区分

区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当
人数	32	2	0	0	0	0	0

◇利用中止の状況

種別	通所施設	入所施設	死亡	家庭	計
人数	0	1	0	0	1

⑤ グループホーム喜多ハウス(定員7人)

知的障がいの男性で就労等日中活動の場が確保されている方に地域での普通の生活を提供するとともに利用者個々の生活上の相談に応じ支援しました。

【重点目標】

- 1 個別支援計画に基づいた入居者に対する支援目標や具体的な支援内容を世話人とも共有し、支援の質の向上を図ります。
- 2 喜多ハウスの通過型グループホームの理念を具体化するための体験入居の機会を充実する等戦略的な運営に努めます。

重点目標達成状況

- 1 個々の希望、障がい特性、習慣、健康状態、年齢等を勘案した個別支援計画に基づいた支援を実施しました。外出機会の少ない利用者への余暇支援、糖尿病利用者への食事指導、交友関係など生活支援、高齢利用者に他施設への転居支援などを行いました。実際に支援する世話人に対しての研修の充実も併せて実施しました。
- 2 体験入居の要綱に基づき、1名の体験入居から実際の入居に結びつけました。また、体験候補者をリストアップし、本人と家族に対して体験利用を勧めています。

⑥その他

(ア) 視察者の状況

しみず福祉事業団や特別支援学校等の視察を受け入れました。

件数(件)	延べ人数(人)	1団体平均(人)	月平均(人)
8	50	6.3	4.3

(イ) 講師派遣

関係機関からの依頼などにより、研修会での講演や事業所支援等を行いました。

派遣職種	対象者	講演内容等	回数
支援員、ジョブコーチ、職場開拓員	施設職員、会社経営者、学生、保護者等	社会福祉援助技術、福祉の仕事、障がい者雇用について等	37
看護師、管理栄養士、作業療法士	施設職員、保護者等	障がい特性に応じた利用者支援、食生活について等	38
合計 (前年度比%)			75 (129.3)

(3) 計画相談

■ 指定特定相談支援事業所 たよりん

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき適切な保健、医療、福祉、就労支援、教育等のサービスが多様な事業所等から総合的かつ効率的に提供されるよう配慮して、計画相談支援を実施しました。

利用計画案作成件数	本計画作成件数	モニタリング報告書件数	基本相談件数	サービス利用調整件数	家庭訪問件数
169	173	250	1,005	1,654	340

■ 障がい児相談支援事業所 オアシス

障がい児及び障がい児の保護者に対し、適切かつ円滑な計画相談支援及び障がい児相談支援を実施しました。

利用計画案作成件数	本計画作成件数	モニタリング報告書件数	家庭訪問件数
252	242	325	326

4 事務局

安定した法人運営を図るため有能な人材確保に努めるとともに人材の育成を図るため新たな研修体系を構築し、効率的な運営と経営基盤の強化に努めました。

また、市派遣職員の引揚等に伴う中堅職員の積極的な内部登用とともに昇任、昇格ポストの新設、主任2人体制の構築等を行い、組織の自律に向け、職員のモチベーション向上を図りました。

【重点目標】

- 1 有能な人材を獲得するため、新たに職員募集用リーフレットを作成したり、就職フェア等へ積極的に参加するなど、従来の職員募集方法の見直しを行います。
- 2 労働契約法の改正に伴い、現行の有期雇用職員の雇用契約制度について、法改正に対応させるための検討を行います。
- 3 人材育成を積極的に推し進めるため、期待人材像に基づく研修科目を選定し、役職や経験年数別の職員研修受講体制案を策定します。
- 4 障がい者差別解消法の趣旨にのっとり、差別解消に向けた取組を進めていきます。

重点目標達成状況

- 1 広報委員会を中心に検討と調整を行い、職員募集用リーフレットを作成しました。また、採用ツールとしてホームページ上で公開するとともに、各種団体が開催する就職フェアに参加し採用を呼び掛けました。
- 2 労働契約法の改正に伴う概要説明を行い、現在勤務する有期契約職員に対して、現状を把握するため無期労働契約への転換希望と処遇の改善に対する意向確認調査を実施しました。また、市の意向を確認し職員に周知を図りました。
- 3 階層別、役職別に管理職研修、一般職員研修について具体的な研修項目を選定し、整理しました。また、在職職員を基に大卒のシミュレーションを作成し、スケジュールの確認、研修項目の内容確認を行いました。
- 4 日本福祉大学教授木全和巳氏を講師として職員研修を実施しました。また、職員における障がいを理由とする差別の解消の推進に関する対応指針及び留意事項を作成しました。

5 実習等の受入れ

関係機関の要請に応じて、医師、歯科衛生士、臨床心理士、大学生、専門学校生、教師及び市職員等の実習並びに児童・生徒の福祉体験学習の受入れを行いました。

■ 体験学習・福祉学習

学 校	人 数	延べ日数	受 入 施 設
小学校 (挙母小、朝日小)	138	12	第二ひまわり、暖
中学校 (崇化館中学校等6校)	28	46	第二ひまわり、けやきワークス ひまわり、ちょうちょ・とんぼ
高等学校 (聖カピタニオ女子高校等2校)	21	5	第二ひまわり、ひまわり
特別支援学校 (豊田特別支援学校等4校)	13	59	第二ひまわり、けやきワークス、暖
合 計 (前年度比%)	200 (70.2)	122 (80.3)	

■ 実習・研修

職 種	学 校 ・ 団 体 名	人 数	延べ日数
医師、臨床心理士	豊田市青少年相談センター、岡崎市こども発達センター、東尾張病院、名古屋大学、桶狭間病院、愛知学院大学	10	91
看護師	トヨタ看護専門学校、豊田特別支援学校	91	91
歯科医師	愛知県歯科医師会	9	9
歯科衛生士	三河歯科衛生専門学校、愛知県コロニー中央病院、慈恵歯科医療ファッション専門学校	65	65
理学療法士	名古屋大学、東名古屋病院附属リハビリテーション学院、うばこ山整形外科クリニック	5	57
作業療法士	名古屋大学、中部大学、愛知医療学院短期大学	73	89
言語聴覚士	日本聴能言語福祉学院、愛知学院大学、日本福祉大学中央福祉専門学校、岡崎市こども発達センター、浜松市こども発達医療総合センター、たけうちこどもクリニック	9	90
社会福祉士	中京大学、日本福祉大学、愛知県立大学、東海医療福祉専門学校	19	376
介護福祉士	慈恵福祉保育専門学校	6	30
教員	中京大学、愛知教育大学	35	161
保育士	愛知県立大学、慈恵福祉保育専門学校、名古屋こども専門学校	50	170
職員研修	市職員、教師・幼稚園教諭、その他の法人職員	152	215
合 計 (前年度比%)		524 (102.3)	1,444 (125.3)

6 ボランティア活動

多数のボランティアのご協力をいただきました。

活動施設	活動内容	活動回数	延べ活動人数	活動団体・個人
こどもひろば (再掲)	園児等の兄弟姉妹の託児	216	1,113	学生・個人等
あおぞら あおぞらおひさま	母子分離時のこどもの託児	60	204	ボランティアグループ とまと
たんぼぼ	母子分離時の療育援助等	45	109	卒園児保護者、学生・個人、美容ボランティア
ひまわり	プール活動、施設見学の兄弟姉妹の託児	35	193	卒園児保護者等
第二ひまわり	利用者の活動援助等（リズム・おどり・ウォーキング等）	298	492	個人・小・中学生
暖	利用者の活動援助、コンサート、パフォーマンス等	92	178	個人・学生 豊田高専吹奏楽部 他
けやきワークス	よっていきん祭運営補助、施設環境整備	2	40	トヨタボランティア 梅坪台PTA 他
合 計 (前年度比%)		748 (103.5)	2,329 (95.4)	